



安全ワークショップ終了！

安全ワークショップを全クラスが無事受講し終わりました。とても面白かったですね。キーワードは「カイトケーション（快適＋コミュニケーション）」、「安全とはお互いがほどほどに、快適なこと」、「想像力」。そのキーワードを理解しやすくするために演劇を用いたワークショップとなりました。

☆4組辛くんからの寄稿

そのワークショップの感想を辛くんに寄せてもらいました。

4月17日に、安全ワークショップがありました。「劇を見て学ぶ」という初めての体験の中、非常に楽しく、電車内のルールやマナーを身につけることが出来ました。内容は、最初に役者さんが、荷物を電車のドアの正面に置いて、大声で喋っているマナーの悪い海城生と、周りの乗客を演じました。次にその海城生に対して僕達



が改善点を指摘しました。最後に、それらの改善点を踏まえて、理想的なマナーの海城生を演じてもらいました。同じ役者さんが、別々のマナーの海城生を演じていて、その様子が非常に対照的に表現されていて、わかり易かったです。

僕は安全ワークショップを通して、2つのことを学びました。1つ目は、「他の利用者に気を配る」ことです。当たり前のように感じますが、友達との会話が弾んだり、スマートフォンに夢中になったりすると、無意識のうちに他の利用者に迷惑をかけてしまうので、周りの視線を感じた時に周りを見回そうと思いました。2つ目は、「自分に

気を配る」ことです。何かに夢中になってしまうと、他の人はもちろん自分のことにも気を配ることが難しくなってしまいます。例えば、リュックサックのチャックが開いて中から荷物が漏れそうだとします。しかし、スマートフォンに夢中で気がつかないと、場合によっては何かの衝撃で教科書などを落としてしまいます。だから僕は、何かに夢中になっていても自分の身の周りのことにも気をかけておこうと思いました。今回の安全ワークショップで学んだことを、朝夕の電車通学で生かして、気配りのできる理想的なマナーの海城生を目指していきたいです。

1年4組 辛彬史（しん よしふみ）

登場人物の中には、2人の海城生のマナーの悪さを不快に感じ、怒ってしまう女性の役の方もいましたね。その方にも皆でアドバイスをしました。面白いなと僕が感じたのは、その3人がそれぞれに事情を抱えているということです。海城生役の1人が実は車両内にいる女性が不愉快そうであること、また置いた荷物が通行の妨げになっていることに気がついてたけど、なんとなく動けない



↑怒った女性役の方とディスカッション

事情があったこと。女性もそんなに怒るべきではないとは、わかっているけど、最近似たような状況を我慢してきたという「蓄積」があったこと。

きっとコミュニケーションとはお互いが様々な事情を抱えて、行うものだから、いくら相手のことを想像してもこぼれてしまうことってあるんですよね、きっと。だからこそ、相手の気持ちを「想像」していくことをやめないことが大事なんでしょう。もちろん自戒を込めて言っています。僕も努力したいです。

残念なことです。海城生の電車マナーへの苦情は絶え間なく寄せられています。「ほどほどに快適」であるための努力をしましょう。辛君の言う「気配り」、急には難しいかもしれませんが。でも演劇で見たあの状況が君たちを中心に日々起きていることは容易に想像がつかます。相手の気持ちを「想像」して、少しの気配りができれば、数々ある解決策の一つに少しでも近付けるのではないのでしょうか。